

Vol.71

Vol.71 (2017年夏号)

# PMI 日本支部 ニュースレター



Best Practice and Competence / PM事例・知識 .....	3
Stakeholders / 法人スポンサー紹介 .....	9
Activities / 支部活動 .....	13
PM Calendar / PMカレンダー .....	15
Fact Database / データベース .....	16
Editor's Note / 編集後記 .....	20

## Best Practice and Competence / PM 事例・知識

- ◆【部会紹介シリーズ】その2 『ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会』 ..... 3  
 ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会 代表 藤井 新吾

- ◆Women in Workforce ～Managing the transition～ Keys to Success ..... 6  
 女性労働人口 ～変化をマネージする～ 第3回「成功への鍵」  
 PMI日本支部 会員 Ram Narayanan Sastry

## Stakeholders / 法人スポンサー紹介 ..... 9

- セブンスカイズ株式会社
- 株式会社アジャイルウェア

## Activities / 支部活動 ..... 13

- PMI日本フォーラム2017のご案内

## PM Calendar / PM カレンダー ..... 15

- PMI日本支部関連セミナー等

## Fact Database / データベース ..... 16

## Editor's Note / 編集後記 ..... 20

## ◆商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Officeの商標又は登録商標です。

# Best Practice and Competence / PM 事例・知識

## 【部会紹介シリーズ】 その2

### ■『ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会』 (2/2)

ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会 代表 藤井新吾

#### ■はじめに

ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会は、「社会課題の解決を目的とする活動（ソーシャルプロジェクト）に適するプロジェクトマネジメント手法を開発し、普及することによって社会の発展に貢献する」ことをミッションとして活動しています。

当ニューズレター春号では、研究活動の第一歩としてソーシャルPM手法の開発と、その普及のためのワークショップについてご紹介しました。本号では開発したソーシャルPM手法を実際のソーシャル活動に適用し、その成果を検証する「ソーシャルPM実践活動」と、さらに手法を「企業のCSV（共有価値の創造）活動に適用する取り組み」についてご紹介いたします。

まず、ソーシャルPM研究会はPMI日本支部中期計画の戦略施策である「社会貢献活動の実践を通じたPM手法、資産の充実と普及展開」の推進主体となっています。この施策の目的は「PMI日本支部として社会貢献活動を行うことによりPMの適用領域を拡大する」ことにあります。

具体的な活動内容として、

#### ①社会貢献活動の実践（連携先NPO等での活動）

- 災害復興支援NPO
- プロボノ支援NPO
- まちづくりNPO
- 社会福祉協議会

#### ②PM手法、資産の充実と普及展開

- ソーシャルPM手法
- CSV方法論

を掲げています。

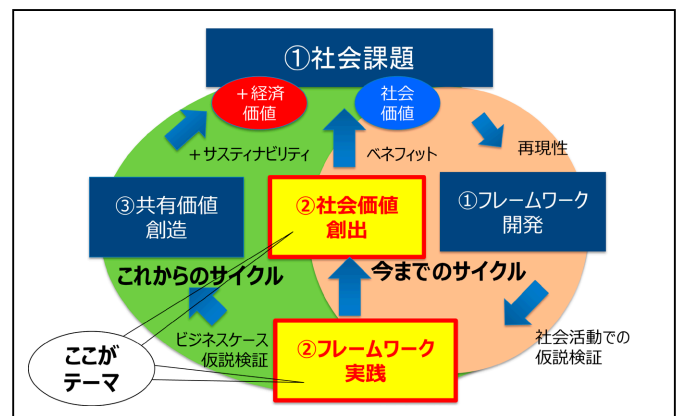
このうち②の第1項は春号で取り上げましたので、今回は

①および②の第2項をご説明することになります。

#### 1. 社会貢献活動の実践

この活動の柱は、社会活動でのフレームワーク実践による仮説検証を繰り返すことで、社会価値を創出することにあります。（図1参照）

図1 ソーシャルPM研究会の活動スコープ



「協働する組織にソーシャルPM手法を適用して成果を検証する」ことを目標に下記の活動方針により実践活動を行っています。

- 実際のソーシャル・プロジェクトに参加して、その円滑な推進を支援する。
- その経験から得た教訓をソーシャルPM研究にフィードバックする。
- 研究会が開発したソーシャルPM手法を適用してその成果を評価し、フォーラム等で発表する。

具体的な活動例をご紹介します。

## ■『ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会』(2/2)

表1 活動分野と主な協業組織

活動分野	協業組織	役割	活動内容
防災対策 復興支援	情報支援 レスキュー隊	PMO	被災地と連携し、情報の収集・活用・発信に関わる中間支援活動。常に被災者のためになるかを問い続けながら、ITを活かすことで、災害対応のための支援。
まちづくり	文京区・ 風のやすみば	アドバイザー	コミュニティカフェ（風のやすみば）を中心とした地域コミュニティにおけるプロジェクト活動支援

## ◆情報支援レスキュー隊

16年9月、台風10号による水害（岩手県岩泉町）における支援団体活動拠点のIT環境立上げプロジェクトにソーシャルPM研究会として参加しました。



## ◆文京区・風のやすみば



ご近所さんをつなぐ。見守る。



## ～ちょっと話すだけで、ホッとできる場所～

人生の最後まで、住み慣れた地域で誰もが自分らしく生きるために。地域で生きる人を、地域で暮らす人が支える拠点として、活動されています。

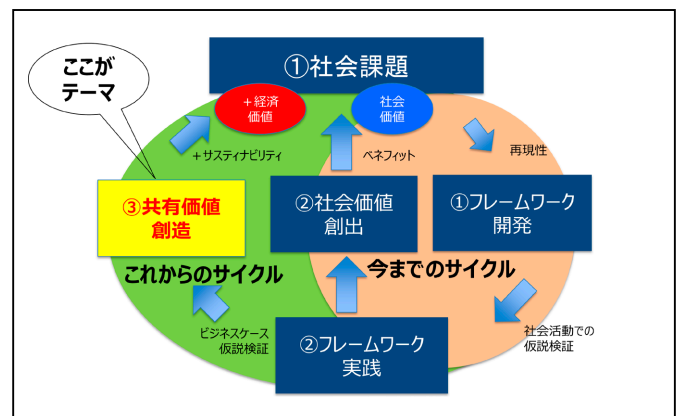
ソーシャルPM研究会では、NPOの運営に寄り添い、パンフレットの作成、クラウド活用、地域防災などへの情報支援活動をしてきました。

## 2. ソーシャルPMからCSV（共有価値の創造）へ

PM手法、資産の充実と普及展開については、2014年～2016年の3年間でソーシャルPM手法の開発が進み、6つのテーマでワークショップを実施する基盤が出来ました。上述のように、この手法を、実際にソーシャル活動を行っているNPOなどの組織に活用していただき、その成果の検証を行ってきました。

2017年からは適用範囲を拡張して企業の社会貢献活動にも展開していきます。近年企業経営において重視され始めたCSV（共有価値の創造）にソーシャルPMの手法を活用していこうという取り組みを開始しました（図2参照）。

図2 ソーシャルPM研究会の活動スコープ（再掲）



## ◆なぜいまCSVか

マイケル・ポーター教授が、2011年ハーバード・ビジネスレビューの論文で「CSV (Creating Shared Value)、つまり社会価値と経済価値の双方を追求することこそ、次世代の資本主義の目指すべき姿」だと論じました。

「社会課題こそ、次のビジネス(経済的な価値)のタネである」と説く。そして、CSVはこれからの競争に勝ち抜くために不可欠なモデルと言っています。

従来のCSR（企業の社会的責任）として行われてきた社会貢献活動は、義務的に行うという受け身の印象がありますが、これをCSVでは企業戦略として行うということです。

ひとつの象徴的な先行事例が「ネスレのCSV経営」です。

## ■『ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会』(2/2)

経営概念の最上位にCSVを位置付けて、食品企業として3つの領域（栄養、水資源、農業地域開発）で社会価値の創出を経営の柱とし、KPI目標を明確にして毎年CSV報告書を公開しています。

詳細は以下を参照ください。

<http://www.nestle.co.jp/CSV/whatisCSV>

日本国内でも最近CSVを標榜する企業が増えてきました。もともと日本には「売り手よし、買い手よし、世間よし」という三方よしの商売理念があって、世の中をよくすることが経営の基本という考え方が自然にCSVに繋がる可能性はあります。ただし、それが理念に留まるのではなく、明確な戦略として社会貢献と経済価値の目標設定をすることが必要です。CSV経営の事例調査については当研究会でいろいろな角度から行っていますので、詳細は別の機会にご紹介いたします。

もう一つCSVを推進するために重要な課題は、成果の測定です。CSV事業が社会に与える変化の大きさを測定する（それを社会的インパクト評価と言います）基準の研究が、英国、米国をはじめとする各国の政府機関、NGO、などで10数年前から強力に進められてきました。最近になって国連機関がグローバルに統一を図ろうとしています。

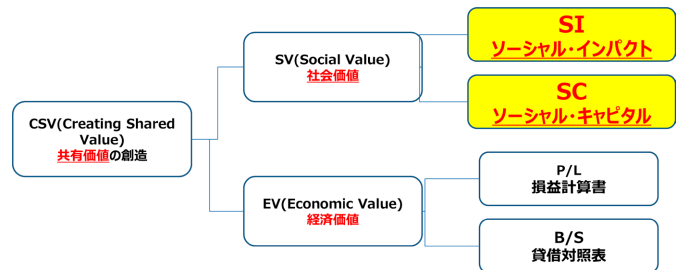
これについても進展が見られ次第、ソーシャルPM手法の中に取り込んでいきます。現時点では2013年のG8サミットを契機に始まったタスクフォースのガイドラインに基づいて評価プロセスを構築しようとしています。

## ◆CSV方法論の開発

以上のような研究の進展に伴い、企業のCSV事業の立上げを支援するための方法論開発に着手しています。まだ今後詳細を詰めていくところで変更の可能性があります。概略をご説明します。

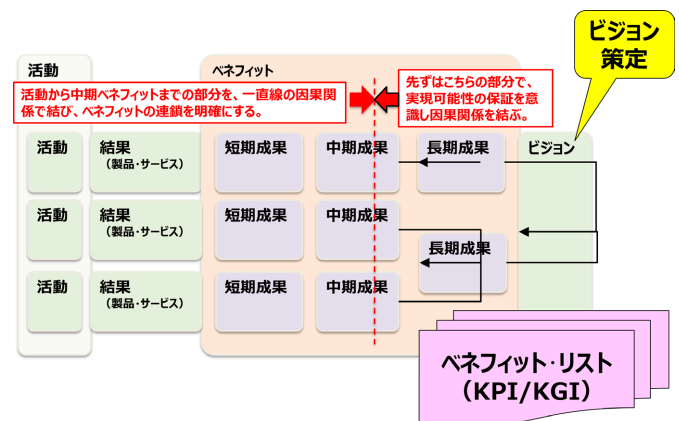
方法論はCSVガイドラインとCSVプロセスの二つのパートで構成されます。ガイドラインにはCSVの価値体系についての参照モデル（図3に構成例を示す）、CSV実行方針などが含まれます。

図3 CSV価値体系



CSVプロセスの基本構造はすでにソーシャルPM手法に体系化されているロジックモデルとベネフィットリストをベースにします（図4）。

図4 ロジックモデルとベネフィットリスト



少し難しい話になりましたが、基本的な枠組みと内容を構成する材料はそろっていますので、それらをどう組み立てるかを実際の企業のみなさんと一緒に考えていきたいと思っています。

## ■おわりに

ソーシャルPM研究会では、これまでソーシャル活動を進めているNPO、自治体のみなさんに「ソーシャルPM」の手法をお勧めしてきました。これからは、企業経営の中で「ソーシャルPM」を活用していただきたいと思っています。

CSV方法論の開発に当たっては、「CSV準備タスク」を開始します。CSV事業の立上げを検討されている企業との共同で事例調査、事業性検討、事業計画の策定をお手伝いします。それに合わせて必要な方法論を順次開発していきます。

近くメンバーの募集を行いますので、この活動に関心がある方のご参加を歓迎します。

## 寄稿：女性労働人口 ～変化をマネージする～

### Women in Workforce Managing the transition Keys to Success

Ram Narayanan Sastry

PMI日本支部会員 (PMP®) のRam Narayanan Sastry氏 (日本在住)から投稿いただいた「女性労働人口 ～変化をマネージする～」を、ニューズレター69号から3回のシリーズで掲載しています。

日本における女性労働力の増加から生まれるベネフィット、課題、そしてその解決策について、外国人男性の目でもとらえた記事となっています。

Sastry氏は、インドのソフトウェアサービス提供会社 (Impetus)、アメリカ系ソフトウェア製品会社 (Oracle)、ドイツ系エンジニアリング会社 (Siemens)、日本の大手製造企業 (東芝メディカル) で勤務し、さまざまな民族・労働文化に接してきた方です。

最終回の今回は「成功への鍵」をお届けします。

As Prime Minister Abe pushes for more and more participation of women in the Japanese workforce, the current norms and processes are in for a disruption. How do Project Managers at different organizations brace for this impact and make this transition as smooth as possible? This article focuses on the benefits, challenges and possible solutions to make this transition possible. Three top picks in each of these areas are discussed in the below article.

#### ■ Women in Workforce #3: Keys to Success

Finally, in this section, we take a look at possible initiatives that can help smooth this process and make it a win-win scenario for all. First and foremost, the Project Manager responsible should be convinced that it is a good idea to have women in the workforce. Also, it is pertinent to

understand that significant changes would be required to make this initiative a success.

#### 1) Choosing the right candidates:

Like any change management issue, the maximum resistance is in the beginning. The change in mindset would be the most difficult at the start when men need to reconcile to the fact women can fit into their workspaces. So it helps if the process can be started with candidates who are experts in their domain. Such expertise helps in two ways: By virtue of being experts, the women candidates have a higher level of self confidence in dealing with technical or domain situations. Secondly, it forces the rest of the team to consult them at a regular frequency.

Additionally, it is important for the soft skills of this person to be on the higher side to help cope with the additional scrutiny and distrust from the rest of the team members. This part is very important as despite what the management wishes or wants, the real challenge is in changing people's mindset and that can only be done by the individuals involved.

When we decided to change our team dynamics by introducing more women, we first started by picking domain experts and then started building the team around them. This ensured that the team members constantly had discussions with the domain experts to clarify their doubts related to the domain. Over a period of time, they became comfortable at this idea and were more open to working

## ■ Women in Workforce

with female members. After this, introducing other members at different roles was not difficult as they did not face the same level of scrutiny from the team members.

*The Project Manager needs to play the role of a facilitator to ensure that the expert is accepted within the team. Depending on the structure of the team and the kind of projects being executed, setting up regular interactive meetings such as design and domain discussions as well as trainings would be very useful to kick start things. Beware of individuals with strong feelings and ensure that such individuals do not have undue influence over the rest of the team.*

### 2) Setting the right tone:

The key to success of this initiative is in setting the right tone at all levels. Despite what the management says, there would be many who would think that this is a fad and the management would revert back to old ways if there is any setback.

For e.g. nobody is perfect, so women like men would do mistakes every now and then. But there could be certain individuals who would like to blow such issues out of proportions. In such scenarios, the Project Manager needs to set the right tone and put things in the right perspective. Often the steadfastness of a leader rubs on the team and makes the change happen.

Also, there needs to be a level of tolerance to mistakes at the start of the process. But this is very tricky to achieve. People are quick to throw around allegations of favoritism or bias if the Project Manager seems to be too protective. So at all times Project Manager needs to be aware of this situation and manage the opinion within the team accordingly.

In India, when companies were struggling with this kind of a scenario, the Government gave them a helping hand by introducing a reservation in jobs for women and the companies which fulfill this requirement got an incentive from the government. Overnight the attitude of the companies changed and they started to work more

proactively to ensure that women got more integrated into the workforce and work in a variety of roles to fulfill this requirement. Similarly, from time to time for such initiatives to work, the tone needs to be set right from the top.

Nothing succeeds like success. Once a few women meet with success and are acknowledged widely, it is time to celebrate their success and spread the stories a bit around in the organization. Awards and Recognitions are good way of building confidence of the women in the workforce and also help them neutralize the feeling of inferiority with the team.

*The Project Manager needs to play the role of a mentor and protector to ensure that undue pressure is not put on the women in the workforce by colleagues knowingly or unknowingly. If needed the Project Manager needs to enlist the support of the Top Management to help create an eco-system where it is possible for women to integrate more smoothly with the current workforce. The Project Manager should use forums such as Awards, Rewards, and Company Journals & Newsletters to keep the right tone within the team.*

### 3) Support Networking:

One of the important aspects of making women part of the workforce is to provide them with a support network within the organization which can help them sort out some of the common problems. For e.g. if the women within the organization have a common forum where they can discuss topics such as daycare for children, work life balance and general day to day issues, their ability to cope with such issues would be enhanced.

From time to time this forum can then also have a discussion with management to help them out with specific issues especially tricky issues like gender bias or sexual misbehavior within the team. If such forums are set up properly and are well managed, these will help in evolving the company processes and practices in better integrating the women into the workforce.

## ■ Women in Workforce

*The Project Manager needs to understand that one person might not be able to address all the issues related to this change. So it is better to have a forum where such employees can take the rest of their issues*

*and get counseling from. In case some changes are needed in the team such forums can help with similar case-studies from other groups making it easier for the Project Manager to implement these steps.*



### Mr. Sastry 's Profile

#### (1) Current Company and title

Company Name: Toshiba Medical Systems Corporation  
Title: Product Analyst, CT Systems Development Department

#### (2) Academic Records

Qualification: Master of Business Administration (MBA)  
Specialization: International Business  
University: ICFAI University  
Graduation Date: Jun 2008

Qualification: Master of Computer Applications (MCA)  
University: Devi Ahilya Vishwa Vidhyalaya  
Graduation Date: Jun 2001

#### Academic Honors:

National Talent Search Examinations Scholarships in India

#### (3) Professional Experience

1999-2002: Impetus Computing Systems Ltd. (Position: Team Lead)  
2002-2005: Oracle India Pvt. Ltd. (Position: Technical Lead)  
2005-2012: Siemens Information Systems Limited (Position: Project Manager) 2012-Till Now: Toshiba Medical Systems Limited (Position: Product Analyst)

#### Professional Awards:

Rising Star Award (2007) , LOB Star Team Award (2008) at Siemens Information Systems Limited



# Stakeholders / 法人スポンサー紹介

## ■ セブンスカイズ株式会社

セブンスカイズ株式会社（以下、7Skies）は、文化の壁を越え、国や地域の境を超えてグローバルに展開されるプロジェクトマネジメント、ビジネスマネジメントをご支援しております。

これまで航空・旅行業界を中心に多くのプロジェクトをご支援して参りましたが、今後、プロジェクトマネジメントのプロフェッショナル集団の中で、これまで以上に活動の幅を広げたいと考え、2017年1月にPMI日本支部様の法人スポンサーとなりました。



### 1. 企業概要

7Skiesは、Creating Cross Cultural Excellence（異文化をつないで卓越した価値を創造する）をミッションとし、空港・旅行業界をはじめとする様々な業界において、企業戦略・事業計画・業務改革計画の策定や、それらの戦略・計画を推進するプロジェクトにおけるプロジェクトマネジメントを、幅広くサポートするコンサルティング会社です。

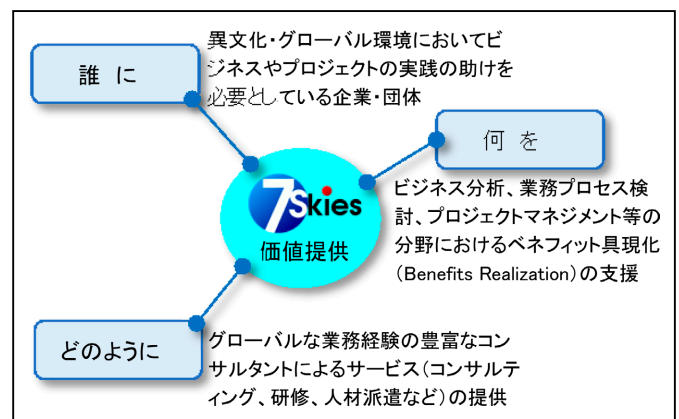
7Skiesは、航空会社出身の2名が2006年に創業し、10年以上にわたって事業を展開して参りました。

#### 7Skiesの創業者



PMP®とTOEIC®スコア900点以上の保有、および日本語と英語によるビジネスやプロジェクトの実務経験を弊社コンサルタントのスキル基準としており、それに加えて経験と訓練を積んだコンサルタントが、グローバルにビジネスとプロジェクトを推進する企業や団体をご支援しています。

### 7Skiesが価値提供する事業ドメイン



### 2. 事業のフォーカス

7Skiesの事業は、4つの視点にフォーカスしています。

#### ■ グローバル

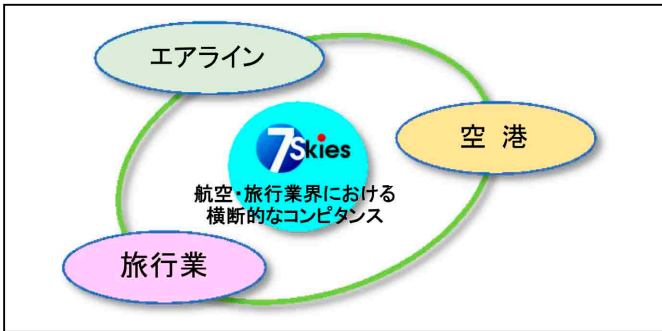
海外のシステム導入、国際基準に合わせた体制づくり、海外企業との取引やグローバルな拠点展開、海外人材の活用など、様々な「グローバル化」を支援します。多様な言語、多様な文化の環境下のビジネスやプロジェクトにおいて、ステークホルダーの架け橋となり、ビジネスのアクティビティをリードします。

#### ■ 航空・旅行業界のプロフェッショナル

エアライン、空港、旅行会社などの事業、業務、IT化等に関する高度な専門性を有しております。業界の様々なお客様へのサービス経験を積み重ねることにより、業界内の横断的なコンピタンスを蓄積しております。

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

■セブンスカイズ株式会社



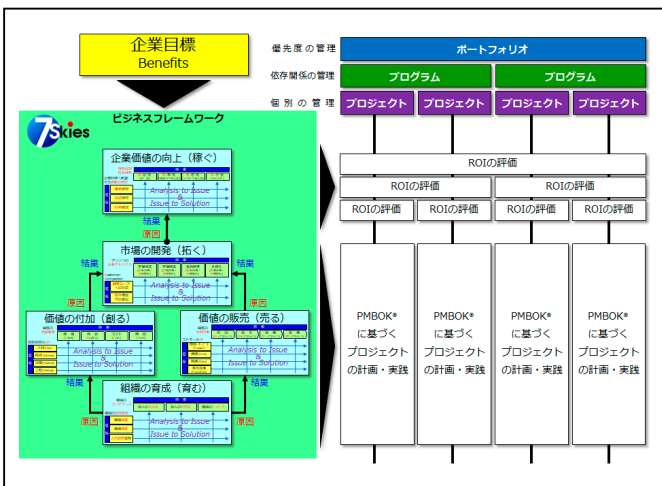
■プロジェクトマネジメント

航空・旅行業界で培ったハイクオリティのプロジェクトマネジメント力に加え、国際標準であるPMBOK®の知識体系に準拠することにより、官民間問わず様々な分野におけるプロジェクトマネジメントの経験を積み上げております。ユーザ企業、システムインテグレータ、ベンダーといったステークホルダーとともに、ITシステム導入、業務改革、事業立ち上げ等のプロジェクトマネジメントを支援します。

■ビジネスマネジメント

企業目標 (Benefits) を確実に達成する (Realize) ためには、ビジネスマネジメント (BM) とプロジェクトマネジメント (PM) を融合させた一貫性のあるマネジメントが不可欠であることは言うまでもありません。7Skiesは、独自のアプローチにより、このBenefits Realization Management (BRM) に取り組んでおります。

7Skiesが取り組む Benefits Realization Management (BRM) のアプローチ



3. 事業内容

7 Skiesは、「グローバル」、「航空・旅行業界のプロフェッショナル」、「プロジェクトマネジメント (PM)」、「ビジネスマネジメント (BM)」の4つのフォーカス分野を中心に、以下のサービスを提供しております。

■コンサルティングサービス

日本語と英語に堪能なコンサルタントが、以下のコンサルティングサービスを提供します。

- 経営課題の洗い出し、解決策の検討・プロジェクト化を支援するビジネスコンサルティング
- ITシステム導入、業務改革、事業立ち上げ等のプロジェクトにおけるPM・PMOのサービス

■研修・トレーニング

実務家、PMP®、MBA保有者、中小企業診断士等が、日本語または英語によるプロジェクトマネジメントやビジネスマネジメントの研修・トレーニング、ワークショップのファシリテーション等のサービスをご提供しています。

■専門人材の派遣

7Skiesは、厚生労働省より労働者派遣事業許可を取得しており (許可番号13-306285)、プロジェクトマネジメント、PMO、BRMなどの分野で専門性をもった人材派遣サービスも提供しています。

4. PMI日本支部への期待

PMI日本支部様の活動への参画が、弊社にとって、多くのプロジェクトマネジメントのプロフェッショナルとの出会いの場となることを期待しております。

日本の「真のグローバル化」に貢献する弊社の価値を知っていただけるよう、参画の場を模索して参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

■セブンスカイズ株式会社  
 〒150-0013  
 東京都渋谷区恵比寿4-11-9クオーレエビス201  
 HP : <http://7skies.com/jp/>

セブンスカイズ



## ■株式会社アジャイルウェア

株式会社アジャイルウェアは、アジャイル開発に特化したシステム開発会社です。3ヶ月で使えるシステム開発を得意としており、Ruby on Railsの高い技術力を軸として、オープンソースのプロジェクト管理ツールRedmineのプラグイン「Lychee Redmine」を開発・販売しています。「Lychee Redmine」は販売開始からわずか3年で導入社数180社を超え、製造・IT業界を中心に幅広い業種で利用されています。



### 1. 企業概要

アジャイルウェアはアジャイル開発を得意とするRuby on Railsのスペシャリスト集団です。Rubyによる開発やRedmineプラグインなどのシステム開発を主な事業として、サーバー構築や運用保守、アジャイル開発のコンサル支援などを行っています。

2012年設立のまだ若い会社ではありますが、現在では大手企業からお問い合わせやパートナー依頼をいただくほど成長し、2017年6月に設立5周年を迎えることができました。その大きな理由として、顧客からのご要望を短納期に具現化してご提供する「パッケージビジネスモデル」と「Rubyによる生産性の高い開発モデル」の2本柱を確立できたことが挙げられます。

さらに従業員に満足度の高い労働環境を提供することで優秀なエンジニアを揃え、高品質のシステムをご提供することで、エンジニアと発注者様双方に大きな効果が生まれる環境を整備しています。

### 2. 事業内容

#### ■受託開発

Webシステムの受託開発が主軸であり、Ruby on Railsのスペシャリスト達によるアジャイル開発を最も得意としています。3ヶ月という短期間で要件定義から開発・リリースまでを高速で繰り返すスタイルにより、Webシステムを継続的に成長させ、要望をいち早く具現化させることで高い顧客満足度のモノづくりを行なっています。このスタイルにより、アーティスト支援PVランキングSNSを2週間で開発した事例もあります。

#### ■Lychee Redmineの開発・販売

Redmineは、タスクの進捗管理や情報共有などができるオープンソースのプロジェクト管理ツールです。フランスの

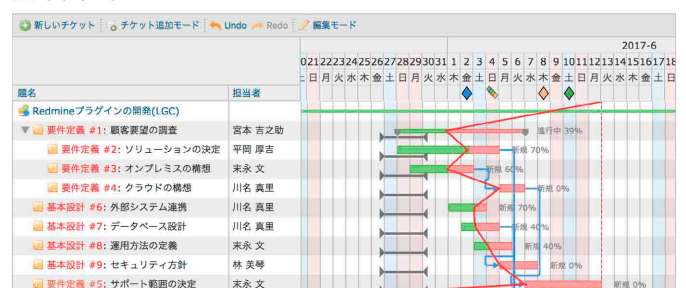
Jean-Philippe Lang氏が開発、2016年6月で公開から10周年を迎え、有志によるコミュニティ交流も活発になるなどプロジェクト管理におけるメインストリームとなりつつあります。

当社はこのRedmineを利用されている企業様のご要望や業務をヒヤリングさせていただきながら、プロジェクト管理の支援を行なっています。ニーズに応じたプラグイン開発はもちろん、業種や業務に合わせたフルカスタマイズなど柔軟な対応を強みとしています。

その代表的な成果物としてRedmineの標準ガントチャートを使いやすくカスタマイズした自社プロダクト「Lychee Redmine」を開発・販売しています。ガントチャート上の情報を直感的に変更できることから、多くの企業様からご好評いただいております。販売からわずか3年間で180社を超える企業様にご導入いただいております。

#### Redmineのプラグイン「Lycheeガントチャート」

ガントチャート



Lychee Redmine

## Stakeholders / 法人スポンサー紹介

## ■株式会社アジャイルウェア

「Lychee Redmine」は、アジャイル開発、ウォーターフォール型開発の両方で活用できるリーズナブルなプラグインです。管理者と現場担当者の双方が活用できるため、スムーズな情報連携とチームワークを促進します。このプラグインはユーザ企業の多種多様なニーズを貪欲に吸収し続けており、新機能の提供やバグフィックスなどにおいて他のパッケージソフトでは実現できないスピードで常に進化しています。

またプラグイン開発に留まらず、Redmineの基本的な使い方から応用例などをまとめた書籍『Redmine実践ガイド』を2015年6月に発行するなど、Redmineの知識や情報、事例、活用法の普及にも尽力しています。



## 3. プロジェクトマネジメント活動

増加する開発案件に対応するため、認定スクラムマスター資格を保持するプロジェクトマネジメント専任者を新たに社員として迎えました。社内のプロジェクト管理がより効率化され、より多くの開発案件にも対応できるようになりました。

また当社は「Lychee Redmine」の開発・販売だけでなくアジャイル開発の知見を広め、プロジェクトの生産性向上と

短納期を支援する活動も行っています。プロジェクトマネージャーやプロダクトオーナーを対象とした研修プログラムも提供しており、経験豊富なプロジェクトマネージャーが、充実した研修プログラムをご提供し人材育成を支援します。

## 4. PMI日本支部への期待

2016年7月より、アジャイルウェアはPMI日本支部の法人スポンサーとなりました。ウォーターフォール型開発が広く浸透しているIT業界では様々な課題があることから、アジャイル開発に注目が集まりつつあります。

しかし、ただ単純にアジャイル開発に移行すればこれまでの課題が改善されるわけではありません。顧客と開発者にとって満足度の高いプロジェクト管理に貢献するため、各課題を適切に認識しつつアジャイル開発の知見や経験・事例などの情報を提供させていただきたいと考えております。そしてPMIスポンサー企業として、PMI日本支部様のイベント・セミナーや各部会活動など継続的な連携をさせていただければ幸いです。

## ■株式会社アジャイルウェア

〒540-0012

大阪府大阪市中央区谷町1丁目3-12

天満橋リーフビル 8F

<http://agileware.jp>

## • Lychee Redmine 製品サイト

<https://lychee-redmine.jp>

※デモサイト、30日間無償評価版もございます

# Activities / 支部活動



一般社団法人PMI日本支部 主催

## PMI日本フォーラム2017のご案内

今年も7月8日、9日の両日にわたり「PMI日本フォーラム2017」を開催する運びとなりました。これもひとえに会員各位、法人スポンサー、アカデミックスポンサーならびにフォーラム・スポンサー組織の皆さま、日ごろPMI日本支部の活動にご支援いただいている関係諸機関の皆さまのご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

さて、2017年は激動の政治の季節を迎え、日本経済に対する影響も読みにくく、不透明感が覆っているようです。アベノミクスも外部変動に翻弄され、日本経済の回復も一進一退のように見受けられます。

一方、経済活動を支える技術革新や新規事業への取り組みは、厳しい競争の中でも絶え間なく続けられております。ビッグデータ、IoT、AIはますます発展の速度を上げ、私が幼かった時に読んだ漫画や見たSF映画の世界が現実のものに近づいて来ました。人間の仕事はますますコンピュータやロボットに置き換えられ、人間と機械との棲み分けが問われる時代に向かっています。実際に、技術がこのまま進展すると、どのような仕事が機械に奪われ、どのような仕事が人間に残されるか、という未来予測に関する論文も公表されています。そのような中で、創造とマネジメント（管理ではない）は人間に残された核になる仕事になると想像されます。

米国では昨年末に、連邦政府の政策をプログラムマネジメントとして捉え、そのための組織・キャリア形成を目指した法案が、上下両院の可決とオバマ前大統領の署名をもって成立しました。米国ではこのように連邦政府レベルでプログラムマネジメントに関わる取り組みがされています。一方日本では、2020年の東京オリンピックに向けた大規模で複雑なプロジェクトが目白押しですが、組織的・体系的・効率的に目標を達成するには、従来の個別のプロジェクトを失敗させないという姿勢の取り組みだけでは実現できないと言えましょう。目標を実現する戦略に基づき、個々のプロジェクトを戦略や目標に整合させる努力が欠かせなくなっています。また、組織は自ら変革を通して新たな仕組みや価値体系を取り入れなければ生き残ることはできません。組織を効率的に効果的に変革できる人材や手法が強く求められています。戦略の目的を実現し続けるための枠組みが、Benefits Realization Managementとして注目されています。

このような文脈を踏まえ、PMI本部は、従来の標準体系からBenefits Realization Managementに向けて、急激にコンテンツを整備しています。日本支部ではPMI本部が提供する最新の動向を、会員の皆さまにより早くより共有していただくため、タイムリーな翻訳や出版、WEBへの掲載、セミナーの開催を行ってまいります。

今年の日本フォーラムのテーマは「CHANGE & INNOVATION - 社会価値の創造に向けて-」です。未来の姿を描き、それに体系的に取り組むためのノウハウ、フレームワークや手法を提供することが、PMI日本支部の活動の使命だと思っています。今年もこの命題に対する数々の示唆をいただける方々を招聘致しました。

なお、今年は海外で活躍されているPMエキスパートの方々から経験談などを拝聴できるグローバル・トラックを設けましたので、奮ってご参加ください。

最後に、PMI日本支部を含むPMIの活動は全てがボランティアに支えられております。会員ならびに関係各位の並々ならぬ貢献に対して重ねて心より感謝の意を表します。引き続き、PMI日本支部の活動にご理解とご支援を賜るようお願い申し上げます。

### 参加費（税込）

参加要項		参加費			
		PMI日本支部 会員	法人 スポンサー	一般	
セッション	早割り料金	1日参加	17,000円	19,000円	29,000円
		両日参加	24,000円	28,000円	46,000円
	通常料金	1日参加	18,000円	20,000円	30,000円
		両日参加	26,000円	30,000円	48,000円
初日交流会		3,000円	3,000円	3,000円	

申込みに関するお問合せはPMI日本フォーラム受付窓口へ

問合せ先：[forum-2017@pmi-japan.org](mailto:forum-2017@pmi-japan.org)

フォーラム受講申し込みはPMI日本フォーラム2017公式サイトから

(日本語) <https://www.pmi-japanforum.org/pmij2/forum-2017/index.html>

(英語) <https://www.pmi-japanforum.org/pmij2/forum-2017/e/index.html>

# CHANGE & INNOVATION

— 社会価値の創造に向けて —

PMI  
日本  
フォーラム  
2017

■開催日 2017年7月8日(土)～9日(日)

受付開始 9:30～(8,9日)

講演 10:00～18:00(8,9日)

交流会 18:20～20:30(8日のみ)

※交流会は、PMという同じテーマを抱えた者同士が語り合うことでさまざまなヒントを得ることを目的としています。初めての方も、ぜひご参加ください。

■講演会場 学術総合センター

■交流会会場 如水会館 (学術総合センター隣接)

■大阪会場 CIVI研修センター新大阪東 (大阪市東淀川区)

■名古屋会場 TKPガーデンシティプレミアム (名古屋市中村区)



学術総合センター 東京都千代田区一ツ橋2-1-2 03-4212-6321  
東京メトロ半蔵門線/都営地下鉄三田線・新宿線「神保町」A6, 9出口  
東京メトロ東西線「竹橋」1b出口

■支部会員の方はお得な支部会員料金でご参加いただけます。この機会に支部への入会をご検討ください。

■早期申し込み割引制度  
2017年6月9日(金)までに参加費お支払い完了の場合に、割引の料金で参加できます。

■参加費お支払い後のキャンセルはお受けできません。確実に参加いただけることを確認の上お申し込みください。

■お申し込みより10営業日までにお支払い未済の場合、断りなくお申し込みを取り消させていただく場合があります。

■PDU取得(受講証明)は、タレント・トライアングルの各領域でPDUが取得できます。公式サイト「参加要項」の「受講証明書」をご参照ください。

■ご注意

①申し込みは1日単位です。半日単位や1講座のみの申込みはできません。

②1日目:13時15分～18時00分、2日目:10時00分～18時00分は複数トラック方式のプログラムです。

受講申し込みの際、参加を希望する講演を各時間ごとに選択してください。

Activities / 支部活動

PMI日本フォーラム2017のご案内

プログラム構成  
7月8日(土)

PMI日本フォーラム2017

トラック	【メイントラック】		【併設トラック】									
	招待	PFM/PGM	人材育成	PMBOK®/PM一般	ソーシャル	グローバル	アカデミック					
9:30 ~				受付開始 (9:30 ~)								
10:00 ~ 10:30 (30min)	奥澤 薫 PMI 日本支部 会長 「PMI 日本支部のこれからの3年と日本フォーラムからのメッセージ」	M-1										
10:30 ~ 11:15 (45min)	神庭弘幸 Region9 Mentor 「PMIモデルの変化 - 求める人材をどう育成するか」	M-2										
11:15 ~ 12:00 (45min)	鈴木安而 PMI 日本支部 理事 「PMI 標準の動向と PMBOK®ガイド第6版について」	M-3										
12:00 ~ 13:15			休 息 (75分)					ランチ セッション				
13:15 ~ 14:15 (60min)	Mark Dickson PMI 本部 会長 「2017 Pulse of the Profession: Value of Project Management」	M-4	野上 啓 PFM/PGM 研究会 「インドと日本のプロマネ現場の違いと、そこから感じた危機感、必要だと感じるアクション」	A-1 中級	飯塚 賢 法人スポンサー・人材育成 SG 「できるプロジェクト・マネジャーの「人開力」とは ~ 人間力向上・強化の探究 ~」	B-1 中級	堀部克平 ステークホルダー研究会 「PMBOK®第6版 Exposure Draft13章を読みこなすコツ」	C-1 基本	中谷英雄 ソーシャル PM 研究会 「社会的インパクトを最大化する PM 手法の探求」	D-1 中級	山戸昭三 法政大学大学院 教授 「PM 教育事例紹介: IT 経営プロジェクト授業の実践と相互評価の効果」 飯島 正 慶應義塾大学 専任講師 「各校の PM 教育事例紹介」	E-1
14:15 ~ 14:30					休 息 (15分)							
14:30 ~ 15:30 (60min)	大平利幸 内閣府情報通信技術 (IT) 総合戦略室 参事官補佐 「政府情報システムにおけるガバナンス・プロジェクトマネジメントの課題と今後」	M-5	河南美章 PFM/PGM 研究会 「不動産管理 (賃貸物件オーナー) への PFM・PGM の導入の可能性」	A-2 中級	酒森 潔 産業技術大学院大学 教授 「どのようにプロジェクトマネジメントを教育するか」	B-2	中西義知 PMBOK® セミナープログラム (PMBOK® セミナープログラムの取り組みについて ~ よりよいセミナーにするために ~)」	C-2 基本	藤井新吾・鈴木幸治 ソーシャル PM 研究会 「ソーシャル・プロジェクトマネジメント手法の実践」	D-2 中級	小川賢一郎 芝浦工業大学附属中学高等学校 教諭 宮原治浩 川崎医療福祉大学 教授 内藤 勲 PMI 日本支部 「PM 教育の裾野拡大: 実践事例の紹介」	E-2
15:30 ~ 15:45					休 息 (15分)							
15:45 ~ 16:45 (60min)	村上憲郎 村上憲郎事務所 代表取締役 「加速する AI と IoT を生き抜くために ~ 新しい価値創造を実現する働き方・学び方」	M-6	下池季樹 PFM/PGM 研究会 「土壌汚染地に最適なマネジメントを考える！」	A-3 中級	大井 悠 メル・ティ・エス マーケティング部 「ユーザー企業におけるビジネスアナリストの育成とキャリア」	B-3	近藤邦久 セミナー・プログラム「ボラティア組織におけるプロジェクトマネジメント」 PMI Japan Festa プロジェクトからの考察 ~」	C-3 中級	高橋正憲・小笠原尚典 ソーシャル PM 研究会 「ソーシャル PM 手法による CSV (共有価値の創造) 実現への取り組み ~ 社会価値と経済価値の両立 ~」	D-3 中級	斉藤 学 PMI 日本支部理事 「プロジェクトマネジメントの裾野拡大のために何が出来るか? ~ 参加者ワークショップ ~」	E-3
16:45 ~ 17:00					休 息 (15分)							
17:00 ~ 18:00 (60min)	倉重英樹 樹シグマシステム 代表取締役会長 兼 社長 「イノベーション考察」	M-7	河村智行 PFM/PGM 研究会 「ポートフォリオ最適化、プロジェクトリスク評価、機械学習を適用して成否の予測」	A-4 上級	宮原勲治・山本智子 関西大学 医療 PM 研究会 「医療現場におけるプロジェクトマネジメント (教学を中心とした)」	B-4 中級	松原れいか 女性 PM コミュニティ研究会 「女性の活躍度 UP のためには? ~ 男性・女性、双方の視点から考える ~」	C-4 基本	岡田翔洋・岩本 淳 関西大学 PM 創生研究会 「社会課題解決のためにプロジェクトマネジメントが出来ること ~ ソーシャル活動の課題と実施例 ~」	D-4 中級	当麻哲哉 慶應義塾大学大学院 教授 佐藤達男 広島修道大学 准教授 山戸昭三 法政大学大学院 教授 「PM 実践者の学術研究とアカデミアへの道 ~ 博士課程 PM 実践者による体験報告 ~」	E-4
18:00 ~ 18:20					移 動 (20分)							
18:20 ~ 20:30					交 流 会 (130分)							

7月9日(日)

トラック	【メイントラック】		【併設トラック】											
	招待	PMO/リスク/EVM	OPM/PM一般	PM一般/事例・手法	PM一般/事例・手法	グローバル	アカデミック							
9:30 ~				受付開始 (9:30 ~)										
10:00 ~ 11:00 (60min)	佐々木順子 ザルトリアス・ジャパン(株) 社長 「プロジェクトマネジャーのためのパフォーマンス入門」	M-8	泉澤聖一 EVM 研究会 「残存指標 TCPI と TSP のためのパフォーマンス入門」	F-1 中級	河々谷健一・堀尾洋人 組織的プロジェクトマネジメント研究会 「日本の組織に OPM を導入するには? ~ 現場力 ~ 組織力へのパラダイム・シフト ~」	G-1 中級	安部 修・野口啓一郎 PM ツール研究会 「プロジェクトマネジメントツールとしてのビジネスモデルキャンパスおよびリニューアブルポジションキャンパス」	H-1 中級	川端 光義 樹アジャイルウェア 代表取締役 CEO 「アジャイル開発にも対応! Redmine によるプロジェクト管理方法」	J-1	HyunkChun KWON PMI South Korea Chapter Director 「The Future Direction of PM in the Age of Convergence」	K-1	井上雅裕 PMI 日本支部 理事 Part1: PMI 日本支部の取り組み Part2: 大学との連携 Part3: PM 教育の基礎 「PM 教育の基礎の基礎とは何か?」を議論」	E-5
11:00 ~ 11:15					休 息 (15分)									
11:15 ~ 12:15 (60min)	林 千晶 開拓フーズ 代表取締役 「未知」と向き合うプロジェクトマネジメント」	M-9	田島史朗 PMO 研究会 「戦略的 PMO (発展編) ~ 近年の PMO の動向とこれから ~」	F-2 中級	池田修一・田島彰二 組織的プロジェクトマネジメント研究会 「組織におけるベネフィット実現のためのテラリング適用」	G-2 中級	北畑純和・浦田有佳里 地域サービス委員会 「産業界によるプロジェクトマネジメントの普及 ~ 地域コミュニティでの PM 活用は可能かどうか ~」	H-2 基本	当麻哲哉 慶應義塾大学大学院 教授 「新規事業開発における PM の重要性と人材育成」	J-2	Jiwat RAM Shandong University China Professor 「Project Management: A vision for 21st century」	K-2	井上雅裕 PMI 日本支部 理事 Part2: 教育国際化委員会のもとで展開しようとしている PMI 日本支部のアカデミックプログラムへの取り組みの枠組みとまとめる意義の紹介と議論」	E-6
12:15 ~ 13:15					休 息 (60分)									
13:15 ~ 14:15 (60min)	片山敏雄 樹シグマシステム 代表取締役 「IoT 予兆クラッシュ SORACOM の挑戦」	M-10	大森 修・若山元男 リスクマネジメント研究会 「リスクマネジメントの定量化に向けて ~ 根付かない現状と対策 ~」	F-3 中級	塩田宏治・水井悦子 PM タレント コンテンシー研究会 「BRM 時代のプロジェクトマネジメント人材及び育成に向けた課題 ~ グローバル調査及び国内調査結果の比較からの気づき ~」	G-3 中級	岡崎洋一・清野あや 関西大学 医療 PM 研究会 「治療プロジェクト WBS の開発」	H-3 中級	松井 淳 Iasa 日本支部理事 梶川百生 Iasa 日本支部代表理事 「IT アーキテクチャの新たな役割 ~ ビジネス改革を支援する専門職 ~」	J-3 中級	Ray JU Sutter Health PMO Manager 「Innovation Through Collaboration In Building A Smart Hospital」	K-3	丸山智子 慶應大学 特任助教 「大学改革を推進する職員に対する実践的 PM 教育」	E-7
14:15 ~ 14:30					休 息 (15分)									
14:30 ~ 15:30 (60min)	残間光太郎 樹シグマシステム 代表取締役 「NTT データ オープンイノベーション事業創発室の取り組みについて」	M-11	足立康子 リスクマネジメント研究会 「バイモダリティ戦略と次世代リスクマネジメント」	F-4 中級	伴 和子 PM 翻訳・出版研究会 「翻訳を通じて知る PM の理想像」	G-4 基本	橋本敬司・大西 徹 関西大学 PM 実践研究会 「プロジェクト・マネジャーの実践力向上をめざしたワークショップ形式による事例研修の考察」	H-4 中級	色野一人 樹トータルクリエイト 講師 「プロジェクト・メンバーの動機づけと育成 ~ 心理学の視点から ~」	J-4 基本	Dan Yousey PMI Honolulu, Hawaii Chapter President 「Driving Business Value: Strategic Planning in a Volunteer Organization」	K-4	内海謙雄 山崎高等専門学校 副校長 井上雅裕 芝浦工業大学 教授 橋田佐由子 芝浦工業大学大学院 「産学・地域・国際連携: 次世代人材育成 (実践事例)」	E-8
15:30 ~ 15:45					休 息 (15分)									
15:45 ~ 16:45 (60min)	中村輝雄 樹シグマシステム サービスプラットフォーム事業本部 シニアマネージャー 「IoT × IT がもたらす社会へのインパクト」	M-12	弘末太郎・鳥羽弘幸 リスクマネジメント研究会 「リスクマネジメント・プロセスのイノベーションと変化の時代の活用」	F-5 中級	山中良文 プロジェクトマネジメント研究会 「イノベーションと変化の時代のあるべき PM の姿」	G-5 中級	松井 淳・入谷 聡 関西大学 PM 創生研究会 「プロジェクトにビジネス価値を渡す方法 ~ PM 現場における BA メソッドの活用例 ~」	H-5 中級	古原健記 樹 ProEver 代表取締役社長 「人工知能を使用したナレッジの効果的な活用事例」	J-5 中級	Marc TASSE PMI Mongolia Chapter General Secretary 「Understanding the Management of Multi-National Project Teams」	K-5	飯塚 淳 中央大学 教授 齊藤 学 PMI 日本支部理事 「プロジェクトマネジメント (PM) 教育における産学・地域・国際連携の可能性と次世代人材育成への適用可能性」	E-9
16:45 ~ 17:00					休 息 (15分)									
17:00 ~ 18:00 (60min)	黒柳俊之 樹シグマシステム 代表取締役社長 「私たちの夢、楽しくて儲かる農業を目指して」	M-13	工藤武久 樹ア・ティ・イノベーションズ 「なぜリスクマネジメントは形骸化してしまうのか? ~ 実効性のあるリスクマネジメント定量化について ~」	F-6 中級	清水千博 ビジネスアナリシス研究会 「プロジェクトの成功に不可欠なビジネスアナリシス」	G-6 中級	飯村北海・岡 啓 アジャイル PM 研究会 「アジャイルプロジェクトマネジメント意識調査報告 2017」	H-6 中級	武上弥寿 組織拡大委員会 「ベネフィット重視のマネジメント ~ ビジネスや社会の要請に応える、新たな PM 像と今後の取組み ~」	J-6 中級	Andrew NEUMAN Management Consultant & Senior Trainer 「Latest project management trends in the United States」	K-6	Shaopei Lin Prof. Institute of Engineering Management in Shanghai Jiao Tong University 「Present status of project management education at leading universities in China and introduction of efforts at Shanghai Jiao Tong University」	E-10

：上級、：中級、：基本 (講演者による設定)

# PM Calendar / PM カレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。

詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

## ■ PMI日本支部関連セミナー

- **ソーシャルPM実践ワークショップ6コースの概要紹介**  
～ソーシャルPM手法の体験～
  - ・日時：7月1日(土) 13:30～17:30
  - ・場所：PMI日本支部セミナールーム
  - ・PDU、ITC実践力ポイント発行なし
- **PMコンピテンシー向上ワークショップ**  
～自己変革の理論と実践～
  - ・日時：7月22日(土) 13:00～17:00
  - ・場所：PMI日本支部セミナールーム
  - ・PDU、ITC実践力ポイント発行なし
- **英語によるコミュニケーション・スキルアップ・ワークショップ 第二弾**  
～コンフリクト・マネジメント編～
  - ・日時：7月27日(木) 9:30～17:30
  - ・場所：PMI日本支部セミナールーム
  - ・6.5PDU、ITC実践力ポイント6.5時間分
- **アジャイル プロジェクト スタートアップ入門**  
～見積り・計画編～
  - ・日時：8月25日(木) 9:30～18:00
  - ・場所：PMI日本支部セミナールーム
  - ・7PDU、ITC実践力ポイント7時間分  
PMI-ACP®受検用事前学習時間7時間
- **ケースメソッド研修 (3回シリーズ)**
  - ・日時：①6月29日(木)、②8月23日(水)、  
③9月28日(木) ③追加10月10日(火)
  - ・場所：PMI日本支部セミナールーム
  - ・各回6.0PDU、ITC実践力ポイント6.0時間分
- **【予定】 変革をリードする次世代リーダーシップ即戦力アップ**  
～自己変革の理論と実践～
  - ・日時：9月7日(木) 9:30～18:00
  - ・場所：PMI日本支部セミナールーム
  - ・7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

## ■ PMI日本支部関連イベント

- **PMI日本フォーラム2017**
  - ・日時：2017年7月8日(土)・9日(日)
  - ・場所：学術総合センター（東京・神保町）  
リモート中継：①大阪市東淀川区  
②名古屋市市中村区
  - ・12PDU、ITC実践力ポイント12時間分
- **【予定】 PMI Japan Festa 2017**
  - ・日時：2017年11月11日(土)・12日(日)
  - ・場所：芝浦工業大学豊洲キャンパス（東京都江東区）
  - ・9PDU、ITC実践力ポイント9時間分

### 【月例セミナーについて】

2017年度の月例セミナーは、千代田区神田の会場で下記の日程で行っています。

<b>【日程（予定を含む）】</b>	① 2017年1月13日(金)	④ 2017年4月14日(金)	⑦ 2017年9月8日(金)
	② 2017年2月10日(金)	⑤ 2017年5月12日(金)	⑧ 2017年12月6日(水)
	③ 2017年3月10日(金)	⑥ 2017年6月9日(金)	
<b>【場 所】</b>	エッサム神田ホール 2号館（JR、東京メトロ銀座線「神田」駅から徒歩3分）		

\*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。  
PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。( <https://www.pmi-japan.org/event/> )





理事 (企画、地域サービス担当)	浦田有佳里	(株式会社HS情報システムズ)
理事 (地域サービス担当)	木南浩司	(株式会社マネジメントソリューションズ)
理事 (教育国際化担当)	斉藤学	(Skylight Consulting Inc.)
理事 (国際連携担当)	杉村宗泰	(日本マイクロソフト株式会社)
理事 (ミッション、標準担当)	鈴木安而	(PMアソシエーツ株式会社)
理事 (ミッション、組織拡大担当)	武上弥尋	(日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (PMコミュニティ活性化担当)	高橋正憲	(PMプロ有限会社)
理事 (PMコミュニティ活性化担当)	竹内正興	(一般財団法人国際開発センター)
理事 (PMコミュニティ活性化担当)	当麻哲哉	(慶應義塾大学大学院)
理事 (組織拡大担当)	徳永幹彦	(株式会社日立インフォメーションアカデミー)
理事 (標準担当)	中嶋秀隆	(プラネット株式会社)
理事 (国際連携担当)	福本伸昭	(日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (財政担当)	三嶋良武	(株式会社三菱総合研究所)
理事 (企画、組織拡大担当)	森田公至	(日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (国際連携、標準担当)	除村健俊	(株式会社リコー)
監事	神庭弘年	(神庭PM研究所)
監事	平石謙治	(ビー・ティー・ジー・インタナショナル)
監事	渡辺善子	(株式会社日本政策金融公庫 社外取締役)

## ■最新の会員・資格者情報 (2017年4月30日現在)

会員数		資格保有者数								
		PMP®		PMI-SP®	PMI-RMP®	PgMP®	PMI-ACP®	PfMP®	PMI-PBA®	CAPM®
PMI本部	日本支部	世界全体	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住
484,657人	3,522人	773,840人	35,251人	4人	5人	4人	26人	2人	3人	103人

## ■行政スポンサー (2017年6月現在)

- 三重県 桑名市
- 滋賀県 大津市

## ■法人スポンサー 一覧 (106社、順不同、2017年6月現在)

- TIS株式会社
- 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 株式会社NSD
- 株式会社インテック
- キヤノンITソリューションズ株式会社
- 日本電気株式会社
- 株式会社ジェーエムエーシステムズ
- アイアンドエルソフトウェア株式会社
- 株式会社NTTデータ
- 日本マイクロソフト株式会社

- プラネット株式会社
- 株式会社建設技術研究所
- 日本ユニカシステムズ株式会社
- 株式会社クレスコ
- ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- 日本ヒューレット・パカード株式会社
- 株式会社アイ・ティー・ワン
- コンピューターサイエンス株式会社
- 株式会社タリアセンコンサルティング
- TDCソフトエンジニアリング株式会社
- 株式会社大塚商会
- 日本プロセス株式会社
- 株式会社NTTデータ関西
- 日本ユニシス株式会社
- Kepner-Tregoe Japan, LLC.
- JBCC 株式会社
- 株式会社富士ゼロックス総合教育研究所
- 日本アイ・ビー・エム・ビズインテック株式会社
- 株式会社アイテック
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- 株式会社日立インフォメーションアカデミー
- 情報技術開発株式会社
- 富士ゼロックス株式会社
- アイシンク株式会社
- 千代田システムテクノロジーズ株式会社
- 三菱総研DCS 株式会社
- ソニーセミコンダクソリューションズ株式会社
- 東芝テック株式会社
- 三菱スペース・ソフトウェア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- NTTデータアイ株式会社
- 新日鉄住金ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- NECネクサソリューションズ株式会社
- 株式会社JSOL
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 株式会社リコー
- 株式会社システム情報
- 住友電気情報システム株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- NDIソリューションズ株式会社
- 株式会社日立製作所
- 株式会社システムインテグレータ
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 富士電機株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社神戸製鋼所
- 日本証券テクノロジー株式会社
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- International Institute for learning - Japan 株式会社
- 株式会社ラック
- ニューソン株式会社
- 三菱電機株式会社
- TAC 株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 日立INSソフトウェア株式会社
- 株式会社シグマクシス
- 株式会社TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社
- 株式会社アイ・ラーニング
- 株式会社トヨタコミュニケーションシステム
- 東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- Innova Solutions, Inc.
- 株式会社ワコム
- 株式会社HGSTジャパン
- NCS & A 株式会社
- 日本システムウエア株式会社
- 日立物流ソフトウェア株式会社
- SCSK 株式会社
- 株式会社東レシステムセンター
- ビジネステクノクラフツ株式会社
- 株式会社シティアスコム
- SOMPOシステムズ株式会社

- 株式会社エル・ティー・エス
- 株式会社日立産業制御ソリューションズ
- MS & AD システムズ株式会社
- 日本クイント株式会社
- 第一生命保険株式会社
- リコージャパン株式会社
- 株式会社HS情報システムズ
- 株式会社アジャイルウェア
- 株式会社ビジネス・ブレイクスルー
- ソフトバンク・テクノロジー株式会社
- 株式会社インテージテクノスフィア
- 株式会社ネクストスケープ
- セブンスカイズ株式会社
- 関電システムソリューションズ株式会社

## ■アカデミック・スポンサー 一覧 (36教育機関、登録順、2017年6月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学経済学部
- 北海道大学 大学院情報科学研究科
- 山口大学大学院技術経営研究科
- 筑波大学大学院システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学 ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 情報科学部
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 北海道大学 サステイナビリティ学教育研究センター
- 大阪大学 大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 学校法人中部大学 経営情報学部
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学産学連携推進センター
- 中央大学 文学部社会情報学専攻
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究支援センター
- 東京工科大学大学院 コンピュータサイエンス専攻
- 北海道情報大学
- 山口大学工学部知能情報工学科
- 川崎医療福祉大学医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
- 青山学院大学 国際マネジメント研究科
- 公立大学法人 公立はこだて未来大学
- 大阪府立大学 21世紀科学研究機構 産学協同高度人材育成センター
- 慶應義塾大学・理工学部・管理工学科・飯島研究室
- 就実大学 経営学部
- 神戸女子大学 家政学部 家政学科
- 明石工業高等専門学校 建築学科 大塚研究室
- サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 物理教育学研究室

# Editor's Note / 編集後記

執筆者の皆さまへ。お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

- 日本支部の部会活動紹介シリーズは、前号に引き続き、活動4年目に入った『ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会』です。今号では、「ソーシャルPM実践活動」と、「企業のCSV（共有価値の創造）活動に適用する取り組み」についてご紹介します。
- Ram Narayanan Sastry氏（日本在住の支部会員）から投稿いただいた「女性労働人口 ～変化をマネージする～」。日本の女性労働力の増加から生まれるベネフィット、課題、そしてその解決策について、外国人男性の目でとらえた論説記事となっています。3回のシリーズの最終回は「成功への鍵」です。
- 「法人スポンサー紹介」は、航空・旅行業界を中心に多くのプロジェクト支援の実績を持つ「セブンスカイズ株式会社」さま、アジャイル開発に特化したシステム開発会社である「株式会社アジャイルウェア」さまの2社です。
- 7月8日・9日に開催する「PMI日本フォーラム2017」が間近に迫りました。今年も大阪・名古屋のリモート会場で基調・招待講演の全てを同時中継します。東京会場にお越しになれない方は、是非同時中継会場にお越しください。

## ニューズレター編集担当から読者の皆様へお願い

ニューズレターは、皆さまからの書評、論評、トピックス、セミナー受講レポート、プロジェクト体験記、PMP認定試験受験体験記などを募集しています。お気軽にPMI日本支部事務局宛てにお送りください。

PMI日本支部ニューズレター Vol.71 2017年6月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局

〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

TEL：03-5847-7301 FAX：03-3664-9833

E-mail：info@pmi-japan.org

ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

(非売品)